

氏 名	松本 亮
学 位 の 種 類	博士（医学）
学 位 記 番 号	甲第649号
学位授与年月日	令和6年4月3日
審 査 委 員	主査 教授 岩下 義明
	副査 教授 日高 匡章
	副査 教授 楫 靖

論文審査の結果の要旨

ハイブリッドERとはCTと透視装置を備えた手術のできる救急初療室であり、当初、外傷診療における診断から治療を患者の移動を伴うことなく一つの診療ユニットで完結することを目的とし開発された。ハイブリッドERの外傷診療における有効性については、本邦を中心として様々な報告がなされてきたが、内因性疾患に対する有効性についての報告はほとんど行われていない。申請者は単施設におけるハイブリッドERで診療された非外傷性疾患患者（内因性疾患患者）の臨床的特徴について後方視的に検討し、ハイブリッドERでの診療が効果的なのはどのような内因性疾患群なのかを調査することを目的として研究を行った。本研究は、これまで明らかにされていなかったハイブリッドERが効果的な内因性疾患を特定する基礎的研究である。島根大学医学部附属病院において、ハイブリッドERを使用した内因性疾患726例を対象に検討した。ハイブリッドERで診療されている主な非外傷性疾患は消化管出血、急性腹症、腹腔内感染症であり、これらの合計が約半数を占めていた。ハイブリッドER内で治療を受けた患者はそれぞれ、緊急手術39例、消化器内視鏡122例、画像下治療100例であった。また、ハイブリッドERで消化器内視鏡や画像下治療を受けた患者のうち、出血性病態の患者においては8割以上の患者が入室時ショック状態または心肺停止状態であったにも関わらず、入室後24時間以内に死亡した患者は内視鏡2例、画像下治療2例と少数であった。このことから、ハイブリッドERは消化管出血や腹腔内出血のような、内視鏡や画像下での治療を必要とする疾患の診療に適している可能性が示唆された。本邦ではハイブリッドERが急激に普及しつつあるが、ほぼ全ての施設で一施設あたり一つの診療ユニットを有するのみである。本研究は、限られた医療資源であるハイブリッドERを、外傷のみならず内因性疾患に対しても効率的に活用するという点において有用な知見を示しており、学位授与に値する成果であると判断した。

最終試験又は学力の確認の結果の要旨

本研究は、ハイブリッドERでの内因性疾患の治療効果について、どのような疾患に対して有用であるかの検討を行ったものである。消化器内視鏡、IRなどの処置を要する出血性病態に対して有用である可能性を示した。申請者は本研究の意義と限界を理解し、次の研究への課題も適切に述べており学位授与に値すると判断した。